

OECDリーダーズ・ダイアログに出席



↑人材育成の重要性を語る遠藤町長（写真中央）

4月16日、東京都内で開催された「福島県の復興や地域づくりを考えるOECDリーダーズ・ダイアログ」に遠藤町長が出席しました。ダイアログには、経済協力開発機構（OECD）のアンヘル・グリア事務総長、石川昭政経済産業大臣政務官、内堀雅雄福島県知事、遠藤智広野町長が登壇し、ラミア・カマルシャウイ局長がモデレーターを務めました。

遠藤町長は、「次世代のリーダーを育む教育が大切だということは世界共通認識である。」と、地域活性化に向けた教育の充実や人材育成の重要性について述べました。

ふたば未来学園 中・高の新入生を歓迎



↑開校・入学を祝う職員ら

4月8日、ふたば未来学園中・高の開校・入学式に合わせ、校門前で新入生を歓迎するあいさつ運動を実施しました。職員や富岡地区防犯指導隊広野分隊員、富岡地区交通安全協会広野分会員ら約50人が参加し、開校を祝う横断幕やのぼりを掲げ、「おめでとうございます。」と呼びかけました。

安倍晋三首相がJヴィレッジを視察



↑フィールドで懇談する安倍首相（写真中央）ら

4月14日、安倍晋三首相が福島県を訪れ、Jヴィレッジや東京電力福島第一原子力発電所などを視察しました。安倍首相はJヴィレッジで遠藤町長をはじめ、ふたば未来学園高等学校サッカー部やJヴィレッジの上田栄治副社長、松本幸英檜葉町長らと懇談しました。安倍首相は、「Jヴィレッジが出発地となる東京五輪の聖火リレーについて、「福島島の皆さんと共に復興五輪の開幕と復興が進んでいる福島を世界に発信したい。」と述べました。

ふたば未来学園 中学校開校式・高等学校入学式



↑開校式・入学式の様子

4月8日、ふたば未来学園中学校開校式・高等学校入学式が行われ双葉郡のシンボルとなる中高一貫教育がスタートしました。開校式は新校舎のアリーナで中・高入学式と合わせて行われました。鈴木淳一県教育長が式辞を述べ、丹野純一校長が中学校の一期生60人と高校の新入生146人の入学を許可し挨拶を述べました。

新入生を代表して広野小学校卒業の大越佑哉さんと広野中学校卒業の猪狩宙さんがそれぞれ誓いの言葉を述べました。

広野町駅周辺 復興町づくり計画を答申



↑遠藤町長（写真左）に計画書を手渡す中津社長（写真右）

3月28日、駅周辺復興町づくり基本計画策定検討委員会は、談話やカフェ、物販の各スペースの設置を柱にした計画書を町に提出しました。計画書では、委員の意見や高校生のアンケートから、広野駅に交流、結節、防災の各機能が求められていると指摘があり、交流機能として待合室の拡充やカフェコーナー、土産物店の設置などが挙げられました。計画書は、委員長の中津弘文町振興公社社長から遠藤町長に手渡され、遠藤町長は、「計画書に盛り込まれた理念を具現化し、人の流れを生み出したい。」と挨拶しました。

行幸啓記念植樹を実施



↑思いを込めて植樹する関係者ら

4月10日、天皇后陛下のご成婚60年をお祝いするとともに、第69回全国植樹祭ご臨席および地方事業視察のため福島県を行幸啓されたことを記念し、常磐道広野料金所に温州みかんの苗木2本を植樹しました。

両陛下は、植樹祭に向かわれる際、特別のご厚意により同料金所に立ち寄り、広野町民と懇談されました。遠藤町長は、「国と国民のために尽くしてこられた両陛下の60年の思いに深い感謝の念をもって植樹式を行いたい。」と挨拶し、関係者と共に丁寧に苗木を植えました。

Jヴィレッジ駅が開業



↑開業セレモニーでくす玉を割る地元小学生

4月20日、JR常磐線のJヴィレッジ駅が開業しました。Jヴィレッジ駅は木戸—広野駅間に新設された臨時駅で、Jヴィレッジでのイベント開催時などに列車が止まります。一番列車の到着に合わせ開業セレモニーが実施され、地元の小学生がくす玉を割るなど、駅周辺は祝福ムードに包まれました。Jヴィレッジ駅は、4月21日から5月6日まで上下線各5本が発着します。

Jヴィレッジ全面再開



↑新たな出発を祝い、放たれた無数のバルーン

4月20日、Jヴィレッジは東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による休業から約8年1ヶ月ぶりに全面再開をしました。昨年7月の一部再開からの一連の再整備を終え、記念の式典やイベントが開催されました。開業以来最多の約2万人が来場し、「復興のシンボル」の新たな出発を祝い、澄んだ青空に無数のバルーンが放たれ祝祭に彩りを添えました。全面再開では、子ども向けのサッカー教室や音楽ライブやご当地グルメ出店などが行われ、国内最高水準の芝の感触を肌で感じていました。